



令和3年2月24日

「長期世界都市人口シナリオに関する研究のnpj Urban Sustainability掲載について」

香川大学創造工学部 紀伊雅敦教授による「長期世界都市人口シナリオに関する研究」が、2021年2月23日（日本時間19時）に、npj(Nature Partner Journals)のUrban Sustainabilityの創刊号に掲載されました。

この研究は、世界約2万都市について、2100年までの人口シナリオを提供するものであり、気候変動政策や都市開発政策、防災政策等に幅広く活用されることが期待されます。

論文題目：”Projecting future populations of urban agglomerations around the world and through the 21st century”

(和訳：21世紀中の全世界の都市圏人口の将来展望)

論文著者：Masanobu Kii

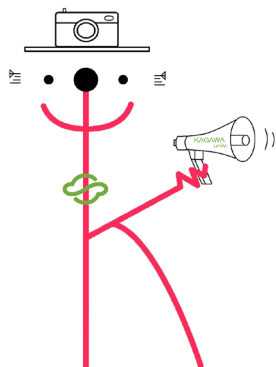
DOI：<https://doi.org/10.1038/s42949-020-00007-5>

研究内容の詳細は別紙をご覧ください。

npj Urban Sustainability 誌について

Nature 誌を刊行する Springer Nature が Royal Melbourne Institute of Technology のパートナーシップの下、新たに創刊したオンライン限定のオープンアクセスジャーナルです。都市の持続可能性に関する質の高い学際研究を出版することを目的としています。

<https://www.nature.com/npjurbansustain/>



➤ お問い合わせ先

香川大学 創造工学部 教授 紀伊雅敦

TEL：087-864-2140

E-mail：kii.masanobu@kagawa-u.ac.jp

※上記不在の場合 香川大学創造工学部庶務係 大熊

TEL：087-864-2000 FAX：087-864-2032

E-mail：koshomu2@kagawa-u.ac.jp

別紙

研究内容について

”Projecting future populations of urban agglomerations around the world and through the 21st century”
(21 世紀中の全世界の都市圏人口の将来展望)

将来の都市圏人口の推計値は、開発政策や持続可能な戦略を立案する上で不可欠な基本情報です。この研究では簡易な都市成長モデルを用い、世界 151 カ国の約 2 万都市について、共通社会経済経路(SSP; Shared Socioeconomic Pathways) と統合的な 21 世紀中の都市人口の推移を推計しました。その結果、都市への人口集中と、これまで以上に人口が集積する超巨大都市の出現が推計されました。

本研究が推計する将来都市人口は、経験的に知られている都市の人口規模分布の法則を満たしている点、過去 50 年間の観測データへの適合性から推計精度が検証されている点、および SSP シナリオと完全に統合的な個別都市の人口を推計している点に、従来研究には見られない特徴があります。

本研究の成果は、気候変動政策、開発政策、防災政策等を含む持続可能な都市政策の検討に活用されることが期待されます。

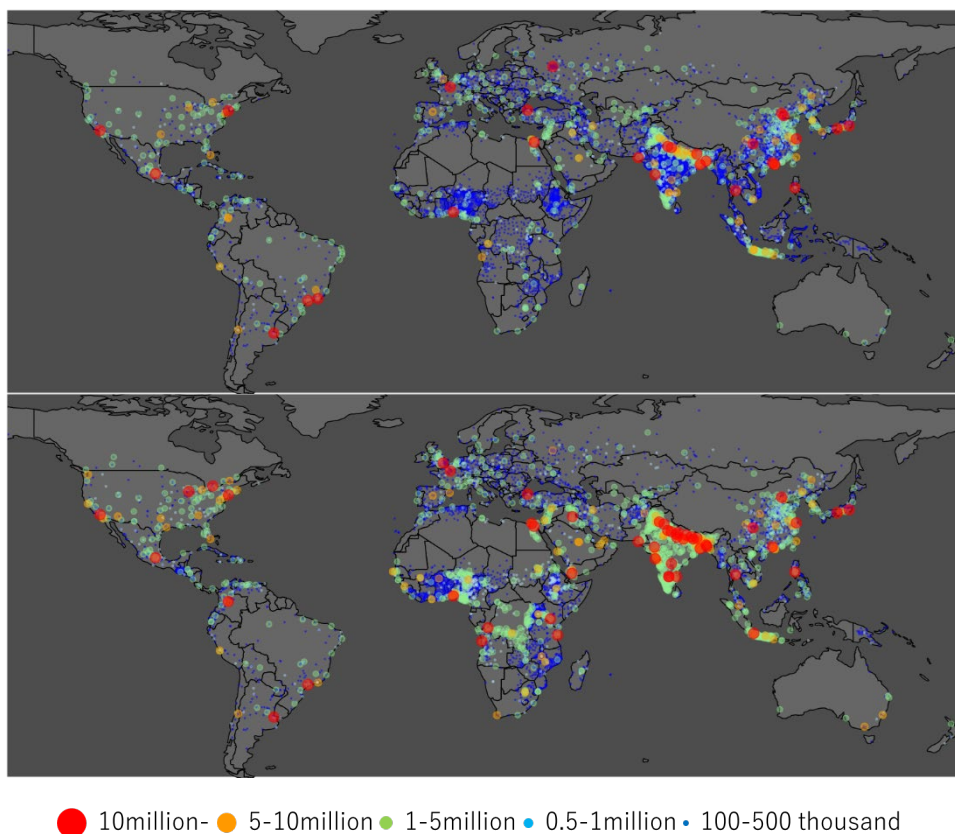


図 推計都市圏人口 (上: 2010 年, 下: 2100 年 (SSP1))

* 本研究は紀伊雅敦教授が代表を務める「世界都市モデルへのマイクロシミュレーション技術の導入と欧州・アジアへの適用可能性 (科学研究費助成事業: 国際共同研究加速基金, 課題番号: 16KK0013)」の研究成果の一部です。